

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年 6月10日 更新

事務事業名		三つの木の家利用促進事業						☒ マニフェスト関連 ☒ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり						所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	上原 哲也
	施策	20	生涯学習の推進						所属課	生涯学習課	担当者名	村上 優太
	基本事業	68	学習やスポーツへの参加機会の提供						所属班	生涯学習班	(内線)	2432
予算科目		会計一般	款10	項5	目5	事業連番10792	法令根拠	合志市三つの木の家設置条例			成果優先度評価結果	⑧
											コスト削減優先度評価結果	⑥
終了、開始年度		☐ 22年度で終了 ☐ 22年度から開始						事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)			

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】	平成11年に学校教育施設から社会教育施設へと移管された際に、三つの木の家の一般利用の促進と生涯学習推進のために開始され、指導員を1名配置し、各種団体への利用促進PR（様々なイベントの企画等）を行う。
(開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	
【業務の流れ】	三つの木の家指導員により、学校をはじめ各種団体に対する施設の設立理念の説明や、様々な事業を通じて利用促進PRを行う。
【主な予算費目】	報酬（三つの木の家指導員分）
【意見や要望】	関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？

1 現状把握の部（DO、PLAN）

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
① 手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動) (DO)		23年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)	
三つの木の家指導員(1名)の配置		三つの木の家指導員(1名)の配置	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)		(単位) 予算の主な増減の理由	
→ ア 指導・助言のための勤務日数		日	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		② 対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位)	
市民		→ ア 人口 人	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③ 成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位)	
三つの木の家をより一層活用してもらう		→ ア 三つの木の家利用者数 人	
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠			
指導員による利用促進ができていないかを把握することができる。			

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	20年度実績(決算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	22年度実績(決算)	23年度目標(当初予算)	24年度予定	25年度見込	総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
① 活動指標	ア 日		180	180	180	180	180	180	180	
② 対象指標	ア 人		54,000	54,800	54,800	55,500	55,500	55,500	56,000	
③ 成果指標	ア 人		4,173	4,352	3,800	4,430	3,900	4,000	4,200	
投資入費量	事業費	国庫支出金	千円							(期間限定複数年度のみ記載)
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	1,688	1,688	1,689	1,319	1,689	1,689	
	人件費	(A) 事業費計	千円	1,688	1,688	1,689	1,319	1,689	1,689	
		(A)のうち指定経費	千円	1,688	1,688	1,689	1,319	1,689	0	
		(A)のうち時間外、特別	千円	0	0	0	0	0	0	
		正規職員従事人数	人	3	3	1	1	1	0	
人件費	延べ業務時間	時間	155	50	120	50	120	120	0	
		(B) 人件費計	千円	620	199	477	206	494	0	
	トータルコスト(A)+(B)		千円	2,308	1,887	2,166	1,525	2,183	1,689	

事務事業名	三つの木の家利用促進事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	-------------	-----	-------

2 評価の部（SEE）

*原則は22年度的事後評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☐ 達成した 利用者数が目標を上回り、昨年度より増加（3月末見込み）	☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 近年利用者数が増加傾向にあり、今後も各学校へのPRや自主事業と連動したPRを続けることで可能であると考えられる。	☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 まだ三つの木の家を知らない住民の方が多いと思われるので、集団宿泊研修拠点として利用ができることを更にPRする。	☒ 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 宿泊が出来る社会教育施設として、類のない施設であるため、統廃合にはなじまない。	☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 事業費は指導員報酬のみで削減は難しい。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 正職員の関与は最小限であり、削減は困難である。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 市民全てに施設の利用促進をPRする事業であり、公平である。	☒ 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】	☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

利用者数が2年連続して増加し、過去最高の利用者数であった。また、利用者に入浴時間の指定を行ったことにより温水用重油使用料削減にもつながった。今後も利用者に心地よく学習活動を取り組んでもらうために、三つの木の家施設使用に関する説明や打ち合わせが必要。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☒事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）		(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要） <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持																							
	低下																							
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																								